



職場環境マネジメントが次世代の技術力を加速

(株)リガルジョイント 代表取締役 **小田中 奈穂美氏**
(おだなか なおみ)

リガルジョイント（南区大野台）は、半導体業界向けなどに、流量計、配管継手、熱交換器といった流体を制御する製品を開発・製造する会社です。創業から52年を迎えた現在は、土井技術統括ジェネラルマネージャー（写真右）を筆頭に、既存の主力製品を基盤とした顧客ニーズを具現化する次世代開発を推進。半導体業界や機械業界、電機業界などの大手企業とも取引があります。社長就任以来、整理整頓など社内環境の整備、開発力の強化に取り組んできた小田中奈穂美社長に、これまで取り組んできた改革の成果や今後の目標について聞きました。

■流体制御の技術を磨く

同社はロングセラーのホース用継手「カンタッチ」をはじめとして、

継手から流量計、集合配管、大型ユニットまで一貫した製品づくりを進めてきました。こうした中、半導体

製造装置などの産業機器に必要な冷却水の流量を、人手に頼らず自動制御するマニホールド型流量コントローラー「WMK」を開発。製造現場の省人化と効率化を実現できる点が評価され、「令和7年度（第40回）神奈川工業技術開発大賞」の奨励賞を受賞しました。このほかにも複数の技術賞の受賞歴があり、各種補助金の活用による新設備の導入や、生産量の拡大に備えた製造ラインの内製化にも取り組んでいます。



1 エコシステムを導入した本社兼研究開発棟「リサーチ&ラボ」遠景
3 玄関口には、確かな技術力と信頼を証明する数々の賞が並び



2 「チカラボ」。5Sの徹底で在庫倉庫が製造・開発拠点へと変貌
4 「神奈川工業技術開発大賞奨励賞」受賞式（提供：神奈川県）

■5Sが生む好循環

「当社の売りは、自社開発の製品はもちろん、それを生み出す背景となっている5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を軸とした環境マネジメントです」と語る小田中社長。同社はソーラー発電蓄熱システムなどを備えた、環境配慮型の研究開発棟を備えるとともに、社内環境も整備してきました。「5Sなんて当たり前のことではないか、と言われそうですが、私が入社した数年前は社内の整理整頓が行き届いておらず、地下には段ボールが山積みになった在庫倉庫がありました」（小田中社長）。そこで、地下倉庫だった空間を製造現場にリニューアルし、「チカラボ」と名付けました。ネーミングは「地下×チカラ×ラボ」から取ったもので、開発拠

点としても機能しています。

さらに、小田中社長は業務の標準化や見える化、従業員のスキルマップ作成といった数々の改革を断行。社内の環境整備が進むにつれ、製造現場からも自発的に改善提案が上がってくるなど好循環が生まれてきました。

■今後は海外展開を強化

同社は社内環境の整備とともに、「従業員が笑顔でなければお客様も笑顔にできない」という言葉を掲げ、有給休暇を増やしたり、全従業員との年1回の個人面談を行ったりするなど、社員と丁寧に向き合っています。さらに女性の制服廃止や時短勤務の拡充、男性の育児休業も実践しています。こうした取り組みが従業

員のモチベーションを高め、製品開発も活発に行われるようになってきたといいます。

今後の事業展開について小田中社長は「やはり海外にも半導体製造装置メーカーがありますので、海外からの受注獲得も進めていきます。具体的には中国、韓国、タイといった国々に向けて、営業展開をしていく予定です」と意気込みます。

また、国内では医療や食品分野に注目し、宇宙分野への進出も目標に掲げるなど、さらなる事業領域の拡大を目指しています。

(株)リガルジョイント

〒252-0331
相模原市南区大野台1-9-49
TEL: 042-756-7567
https://rgl.co.jp/